

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社北海道親育ち研究所 manaイコロ教室（児発）		
○保護者評価実施期間	2024年11月11日		～ 2004年11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2024年11月11日		～ 2004年11月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・見通しを持ち過ごす事ができる。	・通所後に日にち・通所するお友だち・今日の先生等、児童に必要な情報は全て視覚化し、見通しを持ち安心して過ごせるよう配慮しています。また個人ボードを作成し、通所後の過ごし方（手洗いや活動・行事内容等）を絵カードや写真を活用し、一連の流れを提示しています。次の取り組みに移行出来るよう視覚支援を行っています。	個人ボードの多様化。絵カードの大きさや、文字の大きさ等、個々の発達段階に合わせた提示方法を行っているが、必要性を感じる場面はある為、取り組みを行っていく。 ・環境配慮（構造化）を意識し実施しています。
2	「みんなちがってみんないい」を基本に療教育（癒し・教え・育ちあう）を行っています。	活動・行事等は、個々の気持ちを尊重し、一律参加型や、参加形態（椅子に座る、同じ場所等で）は統一していません。個々の特徴に寄り添い、椅子に座る子、座らない子、別室からこっそり状況を伺う子それぞれの参加形態を受け入れ行っています。	月2回の会議の他、朝・昼のミーティングを行っています情報交換、意見交換をより行い個々に合った通所形態を提供。
3	保護者・関係機関との繋がり。	保護者や関係機関との情報共有は、日常的に行っています。児童の状況を把握しています。	全体で情報共有し、療育活動に反映していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材確保	・活動や・行事内容、送迎時間等、ひによする。完成症の蔓延から、職員の確保が難しい状況の時もあり、個々の活動に影響が出てしまう事もある。 ・専門的な知識や経験が必用、また、地域の方々事業所の目的や内容が浸透していない。	年2回の見学会（保育園・幼稚園・こども園・保護者、児童に向け）を行い日頃の活動内容や、過ごし方、先生の役割を知ってもらい、地域への理解を深める。
2	合理的配慮（平等ではなく公平）の浸透が極端である。	保護者・地域に伝えきれていないことから、浸透していない。	年2回の見学会（保育園・幼稚園・こども園・保護者、児童に向け）を行い日頃の活動内容や、過ごし方、先生の役割を知ってもらい、地域への理解を深める。
3	指導者との関わりが少ない為、指導者の顔・名前の認知が固定されてしまう。	殆どの方が就労している状況であり、保護者会について、アンケートでは「時間をとる事が難しい」と無い方が良いとの意見もある。	年1～2回、児童を含め保護者と関わる日を設ける。



## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		manaしらおい教室（児発）				公表日	令和 7年 3月 21日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	9					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9					
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察など含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9					
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9					
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9					
関係	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9					
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8					
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8					
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8					
		(28～30は、センターのみ回答)						

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	2		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2		
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9				

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社北海道親育ち研究所 manaイコロ教室（放デイ）		
○保護者評価実施期間	2024年11月11日		～ 2004年11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2024年11月11日		～ 2004年11月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・見通しを持ち過ごす事ができる。	・通所後に日にち・通所するお友だち・今日の先生等、児童に必要な情報は全て視覚化し、見通しを持ち安心して過ごせるよう配慮しています。また個人ボードを作成し、通所後の過ごし方（手洗いや活動・行事内容等）を絵カードや写真を活用し、一連の流れを提示しています。次の取り組みに移行出来るよう視覚支援を行っています。	個人ボードの多様化。絵カードの大きさや、文字の大きさ等、個々の発達段階に合わせた提示方法を行っているが、必要性を感じる場面はある為、取り組みを行っていく。 ・環境配慮（構造化）を意識し実施しています。
2	「みんなちがってみんないい」を基本に療教育（癒し・教え・育ちあう）を行っています。	活動・行事等は、個々の気持ちを尊重し、一律参加型や、参加形態（椅子に座る、同じ場所等で）は統一していません。個々の特徴に寄り添い、椅子に座る子、座らない子、別室からこっそり状況を伺う子それぞれの参加形態を受け入れ行っています。	月2回の会議の他、朝・昼のミーティングを行っています。情報交換、意見交換をより行い個々に合った通所形態を提供。
3	保護者・関係機関との繋がり。	保護者や関係機関との情報共有は、日常的に行っています。児童の状況を把握しています。	全体で情報共有し、療育活動に反映していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材確保	・活動や・行事内容、送迎時間等、ひによする。完成症の蔓延から、職員の確保が難しい状況の時もあり、個々の活動に影響が出てしまう事もある。 ・専門的な知識や経験が必用、また、地域の方々から事業所の目的や内容が浸透していない。	年2回の見学会（保育園・幼稚園・こども園・保護者、児童に向け）を行い日頃の活動内容や、過ごし方、先生の役割を知ってもらい、地域への理解を深める。
2	合理的配慮（平等ではなく公平）の浸透が極端である。	保護者・地域に伝えきれていないことから、浸透していない。	年2回の見学会（保育園・幼稚園・こども園・保護者、児童に向け）を行い日頃の活動内容や、過ごし方、先生の役割を知ってもらい、地域への理解を深める。
3	指導者との関わりが少ない為、指導者の顔・名前の認知が固定されてしまう。	殆どの方が就労している状況であり、保護者会について、アンケートでは「時間をとる事が難しい」と無い方が良いとの意見もある。	年1～2回、児童を含め保護者と関わる日を設ける。

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	公表日 年月日 令和7年3月21日					利用児童数 22	回収数 18	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16		2		宿題をやることや、ゲームをする所等 あり十分だと思います。		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	3			十分だと思います。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー 化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18				危険な場所などは無いように思いま した。コンセントなどにも配慮がありま す。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いま すか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いま すか。	17			1	観が行っても心地良いと思います。		
適 切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支 援が受けられていると思いませんか。	18				学校で出来なかつたことや、家でどうしても も〇〇してしまう（宿題をしない等も対 応してくれています。）		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いませんか。	18						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に 分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成さ れていると思いませんか。	18						
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	18				思います。		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いませんか。	18				思います。		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	18				成長に伴ってみんなが出来ているのに… (鼻をかむ等) 追加されています。		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機 会がありますか。	8	3	2	5	特に不満はありません。		
	保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	18					
		13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ ましたか。	18					
		14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	14		1	3		
		15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態 について共通理解ができていますか。	18					
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		18				かなり相談のつてもらっています。		
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いませんか。		18				1人で子育てしていた感じなので、とて も心強いです。		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交 流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょう だい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が 設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		8	3	3	4	保護者同士の交流は無いけど、これから も無くて良い、時間を作るのが出来な い。		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されて いるとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることにつ いて、周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されて いますか。		18						
20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされて いると思いませんか。		18						
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体 制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発 信されていますか。		18						
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いませんか。	18							
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ ュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されて いますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18						
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な 訓練が行われていますか。	18						
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される 等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いませんか 。	18						
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や 事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いませんか。	16			2			
満 足 度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	18				子どもも親もとても安心感があります。		
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	14				子どもは普段から通所が一番の楽しみで す。		
	29 事業所の支援に満足していますか。	18				とても満足しています。		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		mana-イコロ教室 (放デイ)				公表日	令和7年 3月 21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8					
	8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9					
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8					
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8					
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6					
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をすする力を育てるための支援を行っているか。	9					
関係機	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9					
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8					
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8					
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7					

関 や 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			